

# ふるさと御所 歴史探訪

## 江戸時代の

## 人口〈1〉

キリスト教の国々には、「教区簿冊」というものがあるということ。ここには、生まれた日、洗礼を受けた日、結婚した日、亡くなった日の記録があります。しかし、これでは全体の人口がわかりません。近世の人口の状態がわかるのは、日本だけなのです。

宗門改帳は、寛永15年（1638）から明治4年（1871）まで作成されました。享保6年（1721）に、8代將軍の吉宗は全国の人口の調査を始めました。大名や代官に支配下の人口を男女別、国別に集計して報告させたのです。その後、子年と午年の6年ごとに実施しました。その記録によると、全国の人口は約2千6百万人で、幕末まで大きな変化はありません。これには武士等が含まれていませんので、江戸時代の中期以降の人口は約3千万人とされています。江戸時代の初期の人口については、約1千8百万人、また1千2百万人土2百万人等の推定があります。その後の100年余りの期間で、人口の増加が大き過ぎるような気がしますが、史料がないので検証ができません。

御所町には、13冊の宗門改帳が残っていますが、そのうち完全なもの12冊分です。記入方法は、その時々々の支配者によって異なっていますが、最も多いのは、1年分が5冊に分かれているものです。浄土宗家持、浄土宗借家、浄土真宗家持、浄土真宗借家、三宗（真

表1 御所町に残っている宗門改帳の形式

年	冊数	内容	記入順	支配	その他
宝暦2年(1752)	2	家持・借家	家並み順	芝村藩預り	現住地主義
文化6年 ~天保7年 (1809~1836)	5	浄土宗家持・借家、 浄土真宗家持・借家、 三宗（真言宗、日蓮宗、禅宗）	寺院別	高取藩預り	本籍地主義
慶応2年(1866)	3	浄土宗、浄土真宗、 三宗（真言宗、日蓮宗、禅宗） [家持・借家区別なし]	寺院別	京都代官所 (前年 大津代官所)	持高、屋敷、建物 記入。
慶応3・4年 (1867・1868)	5	浄土宗家持・借家、 浄土真宗家持・借家、 三宗（真言宗、日蓮宗、禅宗）	寺院別	京都代官所	持高、屋敷、建物 記入。
明治3年(1870)	5	浄土宗家持・借家、 浄土真宗家持・借家、 三宗（真言宗、日蓮宗、禅宗）	寺院別	奈良県	持高のみ記入。



写真1

は、毎年作成されたようすが、大名領のなかには、報告義務のある年だけ作成したところもあるようです。

宗門改帳が残っている期間の御所町の人口は、2千4百人から3千人で、変動の最も大きな要因は、転入または転出です。前述したように、江戸時代中期以降の全国の人口には、大きな変化がありません。都市部では人口が減少し、農村部で増加した人口が都市部に流入するということで変化がなかったのです。

一般的に、江戸時代は早婚で、子だくさんと思われているようですが、実際はそうではなかったのです。御所町の場合、現代と同じで結婚しない人が多く、一家の子どもの数の平均は2人以下でした。これらについて、実際のデータに基づいて説明することにします。（文責 中井陽一）

明けましておめでとうございます。この欄を担当させていただきます。3度目のお正月を迎えることになりました。今年もよろしくお願いたします。

今月から「宗門改帳」に基づいて、「江戸時代の人口」について考えたいと思います。宗門改帳は、キリスト教の禁制を目的としたもので、住民をどこかの寺の檀家になることを義務づけた。宗門改帳は、檀那寺の名前、各家の家族構成、年齢等を記入したものです。キリスト教の禁制の目的等については、諸説がありますが、割愛します。ご興味のある人は、市立図書館にある『国史大辞典』等をご参照ください。